

春日部市 SDGs 推進方針

令和元年 9 月 30 日
春日部市 SDGs 推進本部

1. はじめに

本市では、輝かしい未来を担う子どもたちに、魅力あふれる春日部を大切につなげ、市民生活のすべての分野にわたって安心・安全を確保し、将来に向けて持続可能なまちづくりを維持していくため、総合的に施策を展開してきました。

そうした中、2015 年 9 月、国連サミットにおいて、国際社会全体の目標として「持続可能な開発目標」、いわゆる^{エスディージーズ}SDGs が全会一致で採択されました。

SDGs は、本市が 2017 年度（平成 29 年度）まで推進してきた春日部市総合振興計画における将来像「人・自然・産業が調和した快適創造都市ー春日部ー」、2018 年度（平成 30 年度）から推進している第 2 次春日部市総合振興計画における将来像「つながる にぎわう すまいるシティ 春日部」による取り組みと方向や立場を同じくするものです。

「つながる にぎわう すまいるシティ 春日部」の実現に向けて、SDGs の関連施策の展開例、市の取り組みなどを示すことで、すべてのステークホルダー^{注1}と一体となって SDGs を推進し、持続可能なまちづくりを実現することを目的に、「春日部市 SDGs 推進方針」を定めることとします。

注1 ステークホルダー：市民、企業、行政、大学、NPO、市民団体など関係者

2. SDGs の概要

持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)

持続可能な開発目標(SDGs)には、2030 年を期限とする包括的な 17 のゴールと細分化した 169 のターゲットが設定されており、誰一人取り残さない社会の実現を目指し、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に、統合的に取り組むこととしています。

取り組みの推進にあたっては、今できることの積み重ねでなく、2030 年のゴールに向けて逆算して現在の行動を決めるバックキャスト^{注2}の考え方が採用されています。

SDGs を理解する上で、押えておくポイントは以下の 5 点です。

- 世界共通の目標(17 ゴール、169 ターゲット)
- 産官学民、市民一人ひとりが主役
- 誰一人取り残さない
- 経済・社会・環境の三側面の調和
- 2030 年が目標期限

注2 バックキャスティング {

- ・あるべき将来像から逆算して設定する
- ・長期的視点から政策目標、達成目標を設定する
 }

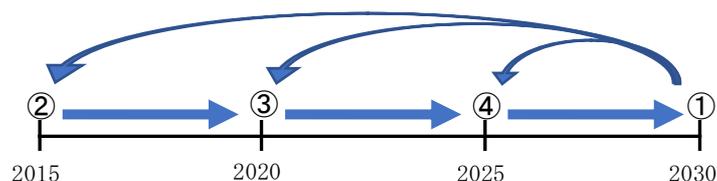


図 SDGs が掲げる 17 ゴールの一覧



3. SDGs 推進に向けた施策の展開例

SDGs は、地球規模の話、国際的な問題を取り上げた内容であると捉えられがちであり、自分ごと、自分たちが暮らす地域のこととして受け取られにくい面があります。

しかし、人口減少、高齢化、経済問題など地域が抱える様々な課題に対し、SDGs は持続可能な地域へと変革するための強力なツールと言えます。

また、SDGs の 17 ゴールは独立しているように見えますが、相互に関連するものとして設定されており、一つのアクションが第一歩となり、様々なゴールにつながり、SDGs の達成に結び付くことが特徴となっています。

2030 年に向けて持続可能な地域を実現する際、SDGs で行うアプローチのためには、

- イノベーション（技術革新）とスリム化
- 包括性と協働
- 未来から考えるバックキャスティング

が重要であると言われています。

次に、SDGs につながるテーマ設定例を示し、具体的なアクションに先行して取り組むことで、SDGs を「見える化」し、市民の皆さんをはじめ、すべてのステークホルダーと理念や目標を共有し、SDGs につながる行動を促すものとします。

テーマ例① プラスチック・スマートを宣言

背景

- ・日本は、1人あたりのプラスチック容器包装廃棄量 世界 2 位(=ひとり大型冷蔵庫 1 台分を使用・排出)
- ・プラスチックのリサイクル率は、約 25%(2013 年時点)
- ・海洋プラスチックは 2050 年に魚の量を上回るとの試算
- ・海洋生物への汚染、海岸への漂着ごみにより各所に影響拡大

プラスチックを「使わない」「捨てない」「代替素材に替える」「再生材を使う」へ

➡ プラスチックごみをなくし、海や河川などの汚染を防ぐ

事業例…グリーン購入の推進、職員エコバッグアクション など

天然資源(海洋生物)は
水・食への貢献



リサイクル技術や代替品の開発を促す



賢く使い、海洋汚染をなくす



テーマ例② 温暖化を抑えるエネルギー対策と、気候変動に対応する適応策

背景

- ・ゲリラ豪雨や台風による甚大な被害が相次ぐ
- ・適度な雨(日降水量 1.0mm)は減少、大雨(日降水量 200mm 以上)は増加
- ・日本の再生可能エネルギー比率は約 16%(2017 年時点)、主要国よりも低い
- ・熱中症による健康被害、暑さによる農作物の品質と収穫量の低下

再生可能エネルギー、省エネルギーを選ぶ選択へ

➡ 温室効果ガス(二酸化炭素)排出量削減により、次世代のリスクを減らす

気候変動に起因する災害に備えるまちをつくる

事業例…公用車の次世代自動車への移行、公共施設への再エネ&蓄エネ導入、防災訓練(自助、共助)の実施、多面的機能を有する農地の保全 など

持続可能なエネルギーによる生活を



エネルギーの地産地消で経済循環 災害に強い暮らしを



生態系を維持しつつ強い農業へ



テーマ例③ いきいきと暮らせる高齢化社会への取り組み

背景

- ・本市は、他市に比べて高齢化の進行が早い
- ・地域コミュニティ、農業、商工業における後継者不足
- ・社会保障関連費の増加により、財政硬直化の進行
- ・介護人材、医療機関の不足
- ・買い物弱者の増加

働きがい、健康づくりにより、地域で必要とされるシニアへ



人生 100 年時代で、シニアが活躍するまち

事業例…シルバー人材センター等の意欲あるシニアが働く場の拡充

生涯学習の充実、健康マイレージ事業、そらまめ体操 など

健康への意識関心を高め
健康寿命を長く



働きがいのある場づくりと、シニアに優しいまちづくり



共助や見守りにより、安心して
住み続けられるまちに



テーマ例③^{プラスワン} 歩いて暮らせるまちへの取り組み

産業構造が集約されたまちへ



公共交通、建物の両方で省エネ



本市は、立地適正化計画による駅周辺への生活・業務の集積型の都市構造への転換を目指している。医療施設、商業施設や住居などがまとまって立地した「コンパクトで歩いて暮らせるまち(多極ネットワーク型コンパクトシティ)」を形成することによって、高齢者をはじめとする市民が、自家用自動車に過度に頼ることなく、公共交通により便利にアクセスできるまちとなることを実現。

多極ネットワーク型コンパクトシティの形成へ



環境に配慮し、歩いて暮らせる住む人にやさしいまち

事業例…春日部駅付近連続立体交差事業、北春日部駅周辺区画整理事業、

中央一丁目市街地再開発事業、新本庁舎整備事業、武里団地のリノベーション など

4. SDGs 推進に向けた課題

SDGs の認知度について、民間の調査^{注3}では、一般の認知度は 27%と依然低い状況にあるものの、回を重ねる毎に数値は上昇しつつあること、特に最近は、若年層の伸び幅が最も大きいことが判明しています。また、若い年代ほど、社会的意義を持った活動に対して参加したいと考えている傾向が見られます。

SDGs では、各ステークホルダーの認知や理解が一層進むことによって、地域内における具体的な行動が促進されていくことが期待されています。

今後、SDGs を推進していくためには、市民をはじめとするすべてのステークホルダーの SDGs 認知度を高める必要があり、SDGs の機運醸成を図ることが当面の課題となっています。

まずは、地域内のナビゲーターとして市職員が研修などにおいて、SDGs に対する認知や理解を深め、意識や行動の変革を始めることが必要です。

注3 令和元年 8 月 21 日「朝日新聞 SDGs 認知度調査第 5 回報告」より

5. 市が担う役割

SDGs を推進し、「つながる にぎわう すまいるシティ 春日部」の実現を加速するため、本市は次の役割を担うものとします。

- (1) 理念・意義・必要性を明示する「地域の先導役」
- (2) 市自らによる「率先した実践行動」
- (3) 企業、大学、市民団体などの「ステークホルダーの発掘」

SDGs の取り組みは、ステークホルダーの主体的な行動が重要となることから、本市が先導役となって、SDGs の理念の共有、理解に向けた情報発信・普及啓発に取り組みます。

また、市長を本部長とする春日部市 SDGs 推進本部を設置し、市として、SDGs を「新たなものさし」として捉え、これまでの施策をさらに進化させ、率先して取り組みます。

さらに、SDGs を共通目標に、ステークホルダーとの取り組みを活性化していきます。

6. SDGs 推進に向けた市の取り組み

SDGs は 2030 年を目標年としていますが、本市では内閣府が選定する「SDGs 未来都市」への挑戦とその推進のための期間を勘案し、春日部市 SDGs 推進本部設置より 3 年間で“重点取組期間”と位置付けます。

(1) 情報発信、普及啓発事業

SDGs の理念を共有し、理解を深める市民向けフォーラムの開催や、SDGs に先導的に取り組む企業や市民団体の活動にスポットを当て、広く市内外に周知するための情報発信及び普及啓発を行います。

(2) 市によるパイロット事業

まず、市の主要施策と SDGs の 17 のゴール及び 169 のターゲットがどう関連しているか、施策調査を実施し公表します。

また、複雑化・多様化する社会的課題を包括的に解決するため、SDGs の視点から各施策を横断的に捉え、SDGs の取り組みを推進することとします。

具体的には、海洋プラスチック問題といった市民生活に密着した社会問題にアプローチする取り組みを今後の「パイロット事業」とし、市自ら実践していきます。

(3) 小さな輪の繋がりづくり

SDGs の推進に向け、最小単位の「地域」から始まる SDGs に寄与する活動の支援を行います。具体的には、企業、大学、NPO、市民団体等といった異業種間での交流・マッチング等を行い、ステークホルダー相互における連携推進に取り組めます。